

中高大学生主体
楽集レクリエーションルーム



主催

(公財) 広島市文化財団 東野公民館
楽集レクリエーションルーム「ふわのき」
社会教育士・広島市社会教育委員
竹澤真奈美





『楽集レクリエーションルーム「ふわのき」』とは

場所

- 最寄り駅…アストラムライン「中筋」駅
- 会 場…東野公民館

活動内容

- 中高大学生主体
- 安心できる居場所づくり
- 学習支援
- やってみたいに挑戦できる
- 地域とつながる



名前の 由来

- 高校生が命名
- 「不破」 ⇒ 破れない ⇒ 負けない心
⇒ “ふわ”のき





「ふわのき」立ち上げの経緯



子どもたちの現状

- ・子どもたちの声
- ・学校と地域の現状
- ・新型コロナウイルスの影響
- ・社会課題（不登校・いじめ・子どもの暴力・自殺の増加、教育・体験格差、核家族化、家庭教育力の低下、都市化、地域コミュニティの意識の衰退、急速なSNSの普及・VUCAの時代）

「家に帰ってもだれもいない」「学校に行きにくい」「勉強を教えてもらう場所がない」「大人はなにもしてくれない」

子どもたちの課題

- ・社会から見えにくい生きづらさを抱える子どもたちの孤立
- ・のびのびと育つ環境の減少



公民館との連携

公民館と連携し、「夏休みの宿題いっしょにやろうよ」を開催(2024年 夏)

- ・2日間で、子どもたちと、中高生・地域の方のべ100人が参加
⇒【成果】今後もこのような活動があつたらしい「続けてほしい」という多数の声

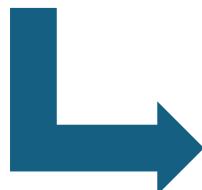
地域の高校生と共に「ふわのき」を立ち上げ 2024年10月



今、子どもたちに必要なこと ~「居場所」の必要性~ ↗

●こども家庭庁 こども家庭審議会
「子どもの居場所づくりに関する指針」2023年12月閣議決定

『「居場所」は「生きる上で必要不可欠の要素」であり、居場所がないことが「孤独・孤立の問題と深く関係する重大な問題』』
と明示。



- ・人間はつながると「心地よい」と感じる。
- ・「孤独」「孤立」は、ストレスホルモンを上昇させ健康に深刻な悪影響を及ぼす。
- ・思春期のメンタルヘルス対策は喫緊の課題。





今、子どもたちに必要なこと ~社会的側面から~

読売新聞(2025年11月8日)

『「人口減少が招く「国民負担増」
…最大の自衛策は「できるだけ長く働くこと」』
・人口減少と「超高齢化」の急速な進展。
・出生率の低下が政府予想を上回るペースで進行し、
2040年の労働力不足は1100万人に達すると予測。

＜少子「超」高齢化の未来＞

- 組織に新風が吹き込みづらくなり、社会や組織の勢いが削がれる。
- イノベーション(革新的なアイデアや技術を取り入れ、新たな価値を創造すること)を起こす力が弱っていく。



若い世代が交流する機会を増やし若者同士で楽しみながら競い合う環境が必要。若い世代同士が交流する中から新たな発想が生まれる。

出典「未来の年表」講談社現代新書

♦2040年に懸念される人手不足問題
(リクルートワーク研究所の資料を基に作成)

| 深刻な働き手不足が予測される職種 | 影響 |
|------------------|--|
| 運転手 | 鉄道やバスの廃線が増加。通勤・通学時間が長くなる  |
| 建設関係者 | 国内の4分の1の地域で、荷物の発送や受け取りができないなくなる |
| 医療専門職 | 医師や看護師が足りず、病院に長蛇の列ができる。救急車が患者の搬送先を見つけられない |
| 介護スタッフ | 訪問介護を受けられない日が増え、家族の負担が増す |
| 先端分野の人材 | エッセンシャルワーカーの確保が優先され、イノベーションを担う人材育成が後回しに  |



今、子どもたちに必要なこと ~5年後、10年後を見据えて~ ↗

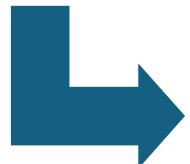
「いつの時代も子どもは遊びを通して人間力を学ぶ」

・「AIに仕事を奪われない人は、人間力のある人」

・「昔は野原でいろいろな年齢の子どもたちが一緒になって遊び、上級生が責任を持って場を取り仕切り下級生の面倒を見る中で、自然と年齢の違う人たちに目を配りながら、どう統率していくのかというリーダーシップが身についた。」

「地域でお祭りや町内会などの手伝いをするなど、家族以外の人たちとのようなコミュニケーションを取っているのか、親の後ろ姿を見て、人間力を身に着ける勉強をしていた。」

出典「池上彰の未来予測After2040」主婦の友社



「人間力」とは？



今、子どもたちに必要なこと ~5年後、10年後を見据えて~

「人間力」の定義

・「知的能力的要素」 学校教育

・「社会・対人関係力的要素」

コミュニケーションスキル、リーダーシップ、公共心、規範意識、他者を尊重し切磋琢磨しながらお互いを高め合う力

・「自己制御的要素」

意欲、忍耐力、自分らしい生き方や成功を追求する力

内閣府 人間力戦略研究会 2023年4月発表

「人間力戦略研究会報告書：若者に夢と目標を抱かせ、意欲を高める
～信頼と連携の社会システム～」

「社会を構成し運営するとともに、
自立した一人の人間として力強く
生きていくための総合的な力」

→ **生きる力**

様々な人とふれ合い体験する機会の必要性

「何かを一度もやったことがなければ、それが好きか嫌いかもわからない。」

「子どもたちにとっての想像力の幅、人間ににとっての選択肢の幅は、大なり

小なり過去の「体験」の影響を受けている

出典「体験格差」講談社現代新書



今、子どもたちに必要なこと

子ども時代の体験は
～前向きで充実した人生の基盤～

「子どもの頃の体験が、大人になってからのやる気にも影響」

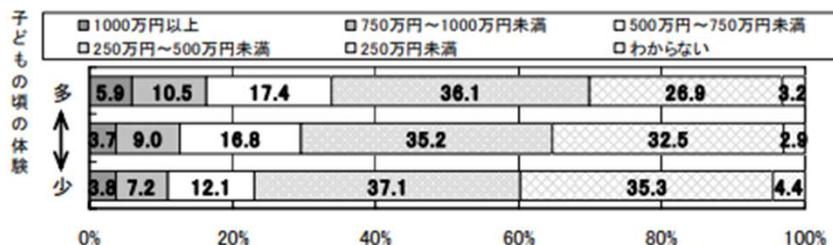
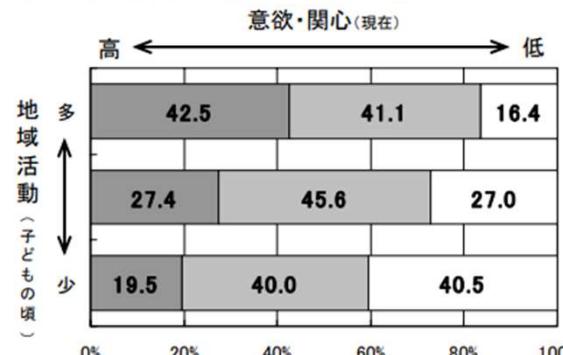


図3-5-2. 子どもの頃の体験の多寡と「現在の年収」との関係

〔「地域活動」と「意欲・関心」の関係〕



「子どもの体験活動の実態に関する調査研究」報告書
調査研究結果の概要(国立青少年教育振興機構)

子どもの頃の自然体験や地域活動などの体験が多いほど、学歴や年収も高い

自己肯定感や、「経験したことのないことには何でもチャレンジしてみたい！」といった意欲・関心が高く、学歴や年収も高い。

地域活動は意欲を引き出す

「なんでも最後までやり遂げたい。経験したことのないことには何でもチャレンジしてみたい。いろいろな国に行ってみたい」といった意欲・関心が高いという相関関係が見られる。

- 多くの人と関わることで異年齢の人とのコミュニケーション力が身につく。
- 視野が広がるため、未経験のことにもチャレンジしてみたくなる。
- 自信がついて、自尊心や自立心、主体性や協調性といった社会を生き抜くための基礎的な能力が養われる。

参考:学研キッズネットウェブサイト



「ふわのき」の活動内容



モットー

地域で共育する子どもたちの未来

学校や家庭以外で小中高大学生・地域住民等、多世代の「つながり」をつくり、「居場所づくり」や「学習支援」「挑戦できる機会」を通して「時間」「空間」「仲間」の3つの間を共有しながら、助け合える仲間づくり、安心感や自己肯定感、非認知能力等を共育する。

① 楽集コミュニティルーム

週1回金曜日 16:30～20:00

- ・地域の方や中高大学生は自習しながら小学生の学習サポート。
- ・将棋やボードゲーム、本、マンガ、ホールでボールやバドミントン、ドッヂビーなどで交流。

② レクリエーション

月1回日曜日 2時間程度

- ・中高生がやってみたいことに挑戦。
- ・レクリエーションの企画、運営を行う。
- ・様々な体験と地域とのつながりを作る。



「ふわのき」の活動の様子



① 楽集コミュニティルーム



② レクリエーション



中高生が先生になり
小学生とスライム作り



老人会の皆さんから
昔遊びを教わろう



防災体験…液状化現象実験、
起震車、簡易ベッド組立体験



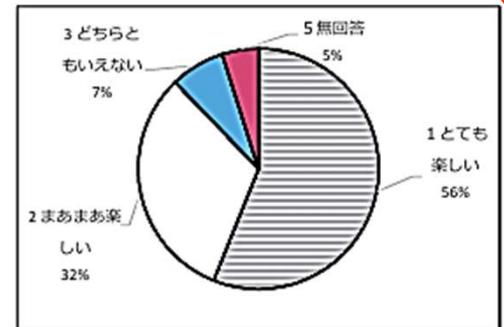
将棋日本一の将棋道場

「ふわのき」の成果



●満足度(「ふわのき」は楽しいですか?)

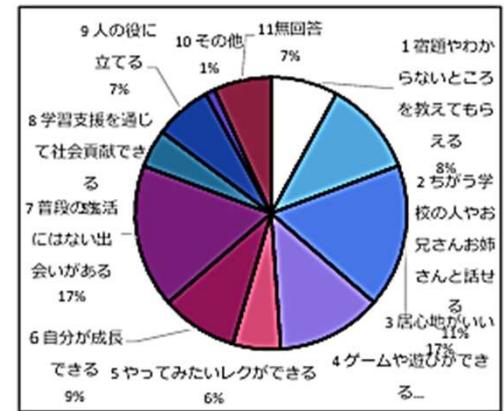
| | | |
|--------|-------------|-----|
| 87.80% | 1 とても楽しい | 23人 |
| | 2 まあまあ楽しい | 13人 |
| | 3 どちらともいえない | 3人 |
| | 3 あまり楽しくない | |
| | 4 楽しくない | |
| | 5 無回答 | 2人 |
| | 合計 | 41人 |



●満足理由(「とても楽しい」「まあまあ楽しい」を選んだ理由は?)

複数回答

| | |
|------------------------|-----|
| 1宿題やわからないところを教えてもらえた | 7人 |
| 2ちがう学校の人やお兄さんお姉さんと話す機会 | 10人 |
| 3居心地がいい | 15人 |
| 4ゲームや遊びができる | 11人 |
| 5やってみたいレクができる | 5人 |
| 6自分が成長できる | 8人 |
| 7普段の生活にはない出会いがある | 15人 |
| 8学習支援を通じて社会貢献できる | 4人 |
| 9人の役に立てる | 6人 |
| 10その他 | 1人 |
| 11無回答 | 6人 |
| 合計（有効回答） | 88人 |



中国新聞2025年5月9日



↑とんど祭り参加
←町民運動会参加



大切にしていること



①地域団体、地域住民、学校、公民館、企業との連携。

・子どもたちをハブとして、地域団体や地域人材を活用し連携。

②子どもたちに寄り添い、声を聞き尊重する。

③大人が先導せず子どもたちの自由な発想で考え決められるよう促す。

④子どもたちの力を信じて見守り、信頼関係を築く。

・子どもたちは誰にでもすぐ心が開けるわけではない。同世代との交流で親近感を持てる。
・子どもたちに声かけし、何度も顔を合わせ信頼関係を築く(ナッジ理論「ザイオンス効果」)。

⑤切れ目のない広報活動。

・毎月活動チラシを小中学校に配付、公民館だより・インスタグラムに掲載。

⑥学習見守りボランティアを外部募集。

・ボランティア募集サイトで募集(公民館から「ボランティア証明書」発行)。

⑦何のために何をやるか。できることはまだある。



現状 と 課題

今後



現状と課題・今後の展望



現 状

- 小 学 生…10名前後が参加。
- ボランティア…中学生:10名前後、高校生:1名、大学生:5名、大人:7名
- ・学校に行きにくい小中学生も参加。
- ・学校や世代の域を超えた交流が生まれ、日常にはない出会いや交流ができている。

課 題

- ・中心となる高校生が受験を迎え、活動に参加できない。
- ・小学生と中高生の下校時間が違うため、中高生と小学生が接する時間が少ない。
(大人ボランティアが代行し新たな多世代交流が生まれている。)
- ・ボランティア活動に積極的な高校生は、地域外の居住者が多く定着率が低い。
- ・ボランティア活動のため、活動費がない。

- ・中高大学生・地域の方と一緒に作る「持続可能な安心できる居場所」の維持継続と定着。
- ・地域団体・地域人材・学校・企業などと連携継続。
- ・中学校と協働し「地域ユースリーダー」育成。
- ・中高大学生がSNSで情報発信。交流掲示板「みんなのおしゃべりひろば」を開始。



最後に



- ・「ふわのき」を多くの人に知ってもらい、未来を担う子どもたちに温かいご支援、ご協力をお願いします。
- ・子どもたちが主体的に取り組める場、子どもたちと地域や多世代が交流できる場、学習支援の場、居場所などを。
- ・地域の子どもたちにどう育ってほしいか…
地域の子どもたちは地域で育て、地元愛を育む。



ご清聴ありがとうございました

楽集レクリエーションルーム

